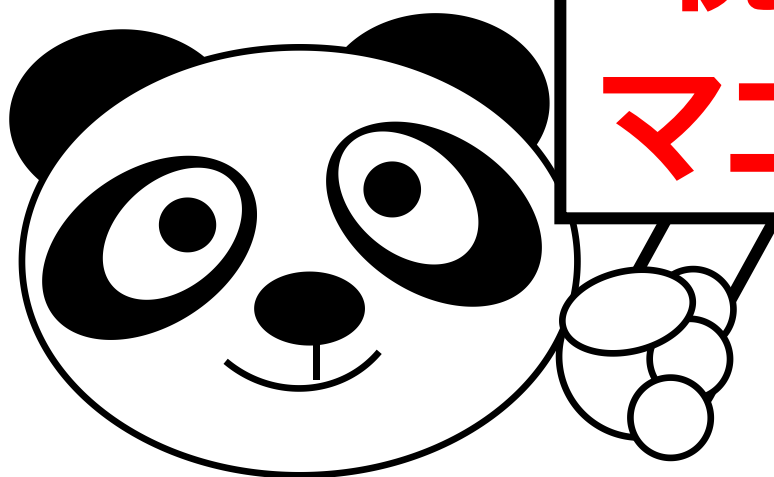




パンダの 視能訓練 マニュアル



紙面の都合により参考
にした著者名、出版名
は割愛しています。



視能矯正・訓練の計画順序

- * 網掛け下線は視能学掲載（破線矢印は複数の訓練に適用なもの）
- * ()の番号は訓練のフローチャートの番号

Iの前に偏心固視矯正訓練

偏心固視を矯正する訓練

以前は上記と判明したら訓練を行ったが現在は殆ど行われない。

- 中心窩刺激法：眩惑刺激法(Bangerter法)(1)
- 残像法：(Cüppers法)(2)
- プリズム矯正法Ⅰ-逆プリズム法(3)

I弱視視能訓練

弱視眼の視力を向上させる訓練

弱視眼の視力が向上すれば抑制除去訓練と並行して行う場合もある。

- 光学的視能矯正
 - 完全矯正眼鏡(4)
 - ペナリゼーション法(6) (不完全遮閉とも言える、薬剤も使用するが主に不完全遮閉が目的であり、光学的視能矯正となる)
 - 遮閉法(5) ←
 - 完全遮閉法(アイパッチによる方法など)
 - 不完全遮閉法(薬物による方法)
 - 健眼アトロピン遮閉法(7)
 - Moore法、Johnson法、Moore—Johnson(石川)変法(8)
- 家庭訓練法
 - 赤鉛筆法(字ひろい訓練など)(9) ←
- 固視訓練
 - 赤フィルタ使用法(10) ←
 - プリズム利用法(11) 過矯正プリズム法(23) ←
 - 生理的複視(認知)訓練法(12) ←
- 薬理的視能矯正法
 - 向精神神経薬(アモバルビタールなど)

II単眼固視訓練

視的環境を整える訓練

弱視がない場合はここからスタート。

- 赤フィルタ使用法(10) ←
- プリズム利用法(11) ←
- 生理的複視(認知)訓練法(12) ←

III抑制除去・同時視訓練

ARCの疑い、又は判ったらすぐにIVへ。

NRCになったら再度Ⅲの必要と考えられる検査からスタート。

- 遮閉法(5) ←
- 複視感知訓練法
 - 赤フィルタ使用法(10) ←
 - プリズム利用法(11) ←
 - 生理的複視(認知)訓練法(12) ←
 - 大型弱視鏡を使用する方法一点減法(17) ←
- 視能訓練法
 - 生理的複視(維持)訓練法(13) 生理的複視認知訓練は、抑制がなく左右眼のFとFとで融像していないと起こらないのでその確認になる。
 - flashing method(14)
 - 大型弱視鏡を使用する方法
 - 交叉(差)法(15)
 - 動的両眼網膜刺激法(16) ←
 - 点減法(複視感知訓練→同時視訓練)(17) ←
 - 振動法(18) ←
 - 出し入れ訓練法(19) ←
 - 追跡訓練法(追いかけ練習)(20) ←
 - 側方移動法(21)
- 家庭訓練法
 - カイロスコプ(33) ←
 - 赤フィルタ使用による鉛筆法(9) ←

訓練は効果が重なっていることが多く、クリアに分けられないし、著者によって分け方も違うので困るなあ。なるべく視能学に準じることになりました。

IV対応異常矯正訓練

異常対応

治療法

- 交代遮閉法(5) ←
- プリズム矯正法Ⅱ-中和プリズム法(22)
- プリズム矯正法Ⅲ-過矯正プリズム法(23) ←
- 手術法

訓練法

- 大型弱視鏡を使用する方法
 - 残像を利用する方法(24)
 - 残像と実像の併用法(残像認知訓練法を含む)(25)
 - 実像による方法
 - 交代点減法(17) ←
 - 両眼黄斑部領域の刺激法(26)
 - 動的両眼網膜刺激法(16) ←
 - Pemberton法(再定位法・自己受容法)(27)
 - Haidinger's brushesを利用する方法(28)

複数の訓練に適用

網膜対応の異常の矯正訓練のBurianの4原則

正常な対応点に同時等量刺激 視能学 P395

- 交代遮閉法
- プリズム療法
- 斜視手術
- 視能訓練

V融像訓練

二重対応

基本的に訓練不要(眼位矯正のみで可)。NRCが勝つ！

- 大型弱視鏡を使用する方法
 - 動的両眼網膜刺激法(16) ←
 - 融像分離結合訓練法(29) ←
 - 追跡訓練法(追いかけ練習)(20) ←
 - 融像幅増強訓練法(30) ←
 - 融像側方移動訓練法(31) ←
 - 融像側方移動訓練法(31) ←
 - 融像幅増強訓練法(30) ←
- 線條メガネを利用する方法
- プリズムを利用する方法
- 家庭訓練法
 - カイロスコプ(33) ←
 - 棒読書器(34)
 - テレビジョンマスク(35)
 - 輪とおし(36)
 - ビーズ通し(37) ←
 - 実体鏡(38)
 - 生理的複視(physiological)カード・3点カードを利用する方法(12) ←

VI立体視獲得訓練

基本的に訓練不要(日常視空間で融像できていればOK)。自然についてくる。不可能ならカイロスコプの立体視用スライドを！！

VII眼球運動訓練

- 健眼遮閉法(5) ←
- 速筋系の眼球運動訓練法(39)
- 徐筋系の融像運動訓練法(32) ←
- MUSCLE(Muskelムスケル)TRAINER(40)
- (融像性)輻湊増強訓練法
 - 凹レンズによる方法(41)
 - 輻湊近点(42)
 - プリズムを利用する方法(融像幅増強訓練法)(30) ←
 - 大型弱視鏡を使用する方法(融像幅増強訓練法)(30) ←
 - Jump convergence訓練法(43)
 - 生理的複視(physiological)カード・3点カード・convergenceカードを利用する方法(12) ←
 - convergence(konvergenzコンベルゲンツ)Trainer(44)
 - ステレオカード訓練法(45)
 - ランダムカード訓練法(46)
 - ビーズ通し(37) ←

補足Ⅰ

駿河台日大病院の方法

- 抑制除去訓練(補足1)
- 日大 Jump convergence訓練(補足2)
- 赤フィルタによる輻湊近点訓練(補足3)
- 鉛筆による生理的複視訓練(補足4)
- Framing card訓練(補足5)
- 3点カード訓練(補足6)
- ステレオカードによる輻湊訓練(補足7)
- base outプリズムによる方法1,2(補足8)

補足Ⅱ

近大病院のXPTの訓練

- Flashing method(14)
- Jump convergence訓練(補足2)
- ビーズ通し(37)
- 3点カード訓練(補足6)
- 鉛筆による生理的複視訓練(補足4)(26. 抑制検査補足⑤)参照
- Framing card訓練(補足5)
- catカードによる輻湊訓練(補足7)
- base outプリズムによる輻湊訓練(補足8)

単眼(固視)訓練
(主に弱視訓練)

両眼視訓練
(主に斜視訓練)

○弱視・斜視の視能訓練の大きな流れ

参考) 保沢こずえ・深井小久子: 視能訓練学 視能学エキスパート P278、286、久保田伸枝: 視能学第2版 P408、427

